

# 土のう88キロ載せた手押し車もらくらくの技をご紹介します



「溝にはまった二輪車が、最大何キロの土のうを載せたまま脱出できるか」という実験では、6人が脱出できた。方法は簡単。一輪車の取っ手を、ゴムテープや丈夫なベルトなどの帯状のもので結び、ゴムテープなどできっかり固定するだけ。その帯にももや腰を押し当てて体で押すと、手押し以上の力が加わると言います。

「溝にはまった二輪車が、最大何キロの土のうを載せたまま脱出できるか」という実験では、6人が脱出できた。方法は簡単。一輪車の取っ手を、ゴムテープや丈夫なベルトなどの帯状のもので結び、ゴムテープなどできっかり固定するだけ。その帯にももや腰を押し当てて体で押すと、手押し以上の力が加わると言います。

た重さの平均は、普通の二輪車だと50キロでしたが、「葉押し」だと88キロ。およそ1.8倍の重さをクリアできたというわけで、「元氣1.8倍」と名付けたそうです。

ちなみに、タオルを使い、両端を手で持つて押すだけでも1.8倍とはいかなくても、効果があるそうです。

記者も試しにやってみました。トライしたのは農場の、土に二輪車がめり込む悪路。確かに軽い。ただ、足の長いスマートな学生が、腰やももに帯を押しつけて運んでいたのに対して、記者は腹に帯が食い込みました。

「スノーダンブ」と呼ばれる大きなちりちりのような雪かき道具の取っ手が、腰で押せるようになっていて、ことから、教授の一人が思いついたこの裏技。特許を取って製品化することも考えたそうですが、「みんなで作ったほうがいい」と思っ申請しなかったと言います。

これからも被災地での片付け作業は続きます。「実践している人もいます。ちと広めて、被災した方の負担は少しでも軽くして、力に自信がない人も、ボランティアで参加してもらえようになれば」と話しています。

(朝日新聞記者・東野真和(要約は文責による))

## 古着も辛いラーメンも『volunteer for volunteer』なら役に立つ

今年も各地で大きな自然災害が頻発し、多くの人々にとって「被災」も「支援活動」も今まで以上に身近な、他人事ではない状況が続きました。

SNS上でも多くの情報交換がなされましたが、災害のたびに話題になる「支援物資」について興味深い意見がありましたので、かいつまんでご紹介いたします。

(Twitterほか)

- 総社市のフリマ式の衣料品配布をもっとも無駄なく回転させていたのは「古着屋」のチーム。毎週のように避難所や役場にフリマの告知をして開催し、残ったら全部持って帰る。現地の負担は場所の提供だけ。
- 古着屋だから一枚たりとも無駄にはしない。災害のたびに古着が悪者のように扱われるのが悲しくて始めた。集めた支援物資を行く前に仕分けする。フリマで余った店で購入してそのお金を募金という徹底っぷり。
- 雑巾にしかないような古着は送る前に雑巾にしてから送る。被災された地域の負担は一秒でもプログラムでも軽く。
- 支援の形は8年前より進化してる。もしかしたら被災者への古着は不要かもしれないが活動する長期ボランティアには十分活用できる。洗濯も容易じゃなかった時期にフィリピンからボランティアに送られてきたシャツの支援は嬉しかったし、避難所じゃ辛いかもしれないがポラセンで炊き出ししてくれたパキスタンからの支援カレーは最高だった。避難所で余った辛いラーメンで作ったボランティア鍋も最高だった。
- 古着こそ『volunteer for volunteer』被災された方よりボランティアの方が有効活用できそうです。断水で洗濯できなくても、使い捨て前提の古着は現地のリソースを食わずに済むから。

(2019.10 要約は文責による)

we support ↓

**RQ**  
災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう！大作戦しんぶん」改め  
復興支援『すけさきた』しんぶん  
かめばこ

「すけさきた」とは  
宮城県登米市あたりの言葉で  
「ボランティアに来てよ」とこの  
意味である

NOVEMBER  
**11**  
2019